

強害帰化雑草「アレチウリ」の防除法

(畜試 草地部)

1. 背景とねらい

近年、サイレージ用とうもろこし圃場で多種の強害帰化雑草が発生し、増加している。

「アレチウリ」は北米産のウリ科1年草であり、茎はつる性で長さ数mに達し、房状の果実には鋭い刺があり中に1種子を有す。県内では盛岡管内を中心に発生し、繁茂するととうもろこしに巻き付いて倒伏させるほか、収穫作業が困難な状況にもなる。

そこで、「アレチウリ」について若干の生態を把握し、その防除方法を検討したので参考に供する。

2. 技術の内容

(1) アレチウリの生態

アレチウリの発芽は一斉でなく、6月から8月下旬頃まで発芽し、8月までに発芽したものが種子を生産する。種子の生産数は、7月までに発芽したアレチウリは1植物体当たり4,700~19,300個と多いが、8月下旬に発芽したものは極端に少なくなる。(表1)

(2) 除草剤による殺草効果

除草剤土壌処理ではアレチウリに対して効果はなく、生育処理ではアトラジンが残存期間が長いので、7月中旬頃発芽するアレチウリに対しても殺草効果がある。(図1)

収穫期のとうもろこしへの影響は、アトラジン処理はアレチウリによる倒伏・折損が少なく、十分な収量を確保できる。(表2)

(3) 防除方法

サイレージ用とうもろこし4葉期(アレチウリ2~4葉期)に、10a当たりアトラジン水和剤(商品名:ゲザプリムフロアブル200mlまたはゲザプリム50水和剤200g)を水100lに希釈し、アレチウリなど雑草に良くかかるように散布する。

除草剤散布による殺草後に発芽・生育したアレチウリについては、とうもろこしに巻き付いたものは茎を切る、小さいものは抜き取るなどの対応をし、種子生産の抑制や被害の軽減に努める。

3. 指導上の留意事項

- (1) アレチウリの生態については研究例も少なく、種子の休眠などについては殆ど不明である。
- (2) アレチウリは随時発芽し草丈が不揃いなので、下繁草まで除草剤が良くかかるように十分な希釈水量とし、散布むらのないよう注意すること。
- (3) アトラジンを含有成分とする除草剤の使用回数は1回なので、アレチウリの発生が予想される圃場では、土壌処理除草剤としてアトラジン以外のものを使用すること。

4. 試験成績の概要

表1 アレチウリ季節別生産特性

	4/20	5/10	6/1	6/20	7/10	8/1
播種日	04.20	05.10	06.01	06.20	07.10	08.01
第1発芽日	06.23	06.20	06.13	07.22	07.24	08.25
第1開花日	08.25	08.27	08.22	09.05	09.02	09.22
要開花日数	127	109	82	77	54	52
植物体当房数	1134	1461	1975	502	1499	1
1房当種子数	8.9	6.7	9.8	9.5	8.6	3.0
植物体当種子数	10132	9815	19343	4782	12824	3

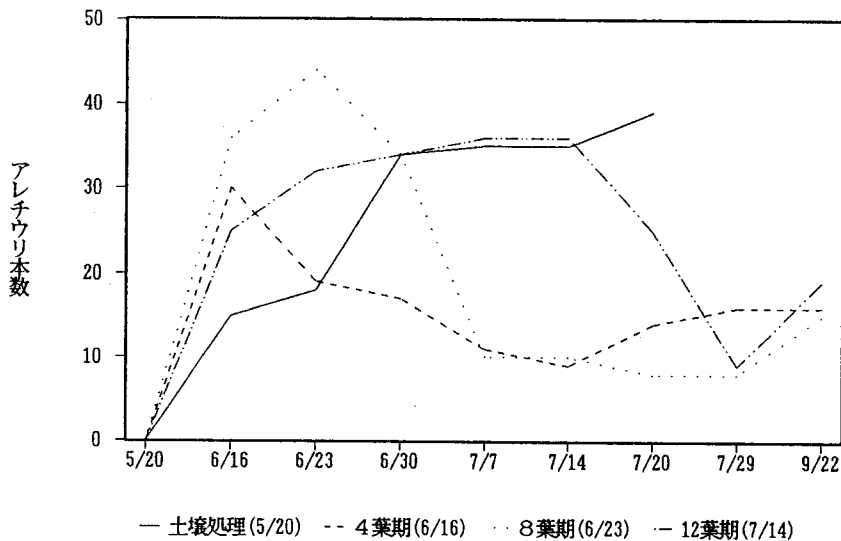


図1 アトラジンの殺草効果

表2 除草剤処理ととうもろこし収量

処理	収穫 月日	折損高	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	生草収量 (kg/10a)	乾物率 (%)	乾物収量 (Kg/10a)
アトラジン・メトラクロール 4葉300cc/10a	09.22	144	238	118	4575	40.1	1835.9
アトラジン・メトラクロール 4葉400cc/10a	09.22	153	231	111	5264	40.0	2106.7
アイキニル4葉期 120cc/10a	09.22	107	228	113	3309	48.8	1614.8
アトラジン4葉期 200cc/10a	09.22		230	100	8562	31.8	2722.9
アトラジン4葉期 200cc/10a	09.22		236	103	8276	32.2	2662.0
アトラジン4葉期 200cc/10a	09.22		233	110	7966	33.1	2638.4

注) 土壌処理区、アトラジン・メトラクロール200cc/10a区、アイキニル140, 160cc/10a区はアレチウリの被害により調査不能